



なぜ❓我々は古本屋になったのか

2016年11月5日（土）

文雅新泉堂 公文堂書店 古書 馬燈書房 香博堂オンライン

司会 たけうま書房

たけうま書房(以下…たけ) 司会のたけうま書房です。早速ですが自己紹介と古本屋になった経緯、きっかけみたいな事をお話し願います。

なぜ、私は…古本屋に…。

文雅新泉堂(以下…文雅) 文雅新泉堂の野崎と申します。古本屋として15年ほどになりますが、それまでは雑誌のライターをやっていました。私が思うに古本屋になる人というのは「くずれ」になっているヒトだと思っています。なので、私は「ライターくずれ」。他にも「映画製作くずれ」「編集者くずれ」だったり、いろいろな「くずれ」な人々がたどり着く場所みたいなところがあります。そして、古本屋になったきっかけは、ライター時代
に請け負っていた雑誌
がリニュー
アルに伴い
ライターと
しての仕事が減ったので、自分のホームページを立ち上げて蔵書を販売してみました。その内、本を売るのがとても面白くなり、仕入れの事も考えて、この組合に入りました。



たけうま書房 福垣篤哉

堂書店 原と申します。昭和15年創業で私で三代目になります。私は大学で京都に行って10年くらいフラフラしていたのですが、子供の頃から店は手伝ってききました。祖父の介護が始まったり、父が店をやめたいと言いついたり、様々が事情が重なり、店を継ごうと決めました。

古書馬燈書房(以下…馬燈) 伊勢佐木町の古書馬燈書房と申します。きっかけは、学生時代に吉祥寺の「古本センター」でバイトをしていて、その仕事がすごく楽しくて。楽しかったのですが、普通に就職して会社員として働いていたのですが、「古本屋になりたい!」という強い思いが捨てきれず、退職して下北沢の「ほん吉」さんで三年間修行して、このたび、独立して店を構えました。

香博堂オンライン(以下…香博) 大和の桜ヶ丘でネット専門の香博堂オンラインと申します。この中では、顔が一番売っています。書籍を扱っている経験としては一番若いと思っています(笑)。三年前まで空調関係の仕事をしていたのですが、実家の父親が倒れてしまい、元々「本好き」の父の蔵書の処分を考えていて、自分でインターネットに載せて販売していたら、本を売るのが楽しくなってきました。当初は「セドリ」の様な状態で続けたら、会社員の給料よりも稼ぎが多くなり、古本屋に鞍替えしました。

たけ では、いろいろと聞いていきます。
馬燈さんは大学を卒業後、一旦、会社務めしたと思うのですが、親の反対とかありましたか？

馬燈 実は会社に入社する前から、もうすでに「心ここにあらず」で古本屋になりたかったのです。なので、会社務めしながら古本屋の職探しもしました。

店か：ネットか：

たけ 現在、横浜伊勢佐木町で実店舗を構えて営業していますが、「店を持つ」という理由はなんですか？

馬燈 ぼくは、その怠惰な人間なのですが（笑）、何かを背負わなければ始められないのです。店という箱もそうですし、従業員を雇うという事含めて、責任をしょったうえで、店頭でお客さんと会話するのが面白いですし、色々な方がいますし、ネットでは伝えられない本を店頭で見せて売る。そこに魅力を感じるから店を持って苦しいなんて思ったことはないです。

たけ 現在、神奈川古書組合の組合員の営業形態は、インターネット専門と店売りと、約半々の割合なのですが、公文堂さんはネットとお店、どのようにされていますか？

公文 インターネットをやらないのは、

単純に回らないからというのが一番の理由です。買取りが多いので、整理して店に出して市場に出して催事に出て目録を書いている繰り返しで手一杯なので、なかなか着手できないのです。それだったら、もっと店に手をかけたいと思っています。

たけ やはり店が一番だと。

公文 とにかく街から古本屋をなくしたくないのです。近くに古本屋があることが、本を捨てずに古本屋に売れることを思い出させる。眠っている本たちが、古本屋によって、また、街に出る。本に再び命を与えるのも、また古本屋としての仕事なので、店売りを一番に考えてます。

たけ 文雅さんはネット販売と組合が主催する催事が主だと思いますが、催事での面白さなどをお聞かせください。

文雅 私

が接客業が苦手なのもあり
ますが、
インター



文雅新泉堂 野崎正幸

ネットでの販売は自分がこれだけ集めたよというリストを見せて注文を受ける。ただ、それだけなのですが、そこにも面白みや駆け引きもある。そして、いかに面白い本を、見つけられるかどうか
が肝になります。

たけ では、香博堂さんに伺います。セドリから組合に加入して良かったこと。メリットなどあればお聞かせねがいいます。

香博 最初はブックオフとかに仕入れにいったんですが、徐々にセドリでは立ち行かなくなってきました、以前より興味あった古書組合に入会しました。

たけ 組合に入って市場で仕入れて、いかがですか？

香博 ISBNが付いている、付いていないもそうですが、やはり市場に出てくる商品のモノが違いますね。

たけ それぞれに得意分野があると思うのですが、馬燈さんは写真集が得意分野なのですか？

馬燈 大学の時に写真部でしたし、自宅にも暗室があるくらい、写真が身近な存在で。写真

集も僕が集めていたものが、そのまま店に並んでいる



公文堂書店 原知子

感じなので、正直売りにくいのですよ(笑) それを得意と言ってよいのか。

たけ 将来は写真の道に進もうとは思わなかったの？

馬燈 あまり興味がなかったのです。ただ、店がうまくいったら自費出版で写真集をだしたいなと思っています。

本は本当に売れてないのか？

たけ 文雅さんは市場では文学系を落札されていますが、今、文学や小説などの流れ、売れ行きなどはいかがですか？

文雅 私が組合に入った15年前と比べても格段に売れなくなったのは痛感しますね。特に小説類などは、まったくと言っていいほど売れなくなりましたよね。だから、市場での価格も下がっていますから、買おうと思えば買えますが、売り先はないかもしれませんね。なので、私は意識的に集めているのが、詩集、歌集などですね。

たけ 長いスパンで売れるもの。という感じでしょうか。確かに毎週のように先輩がたが「本が売れない」と常套句のようにおっしゃっているのですが、公文堂さんはいかがですか？

公文 小説も含めて書籍全般が売れなくなったという感じですね。25年くらい前というのは、まだお客様が価格を確認しないでレジに持って来てくれたり、カゴにドサツといれたり。特に、学校の先生、図書館、博物館、美術館など、バブルの時代に箱ものがたくさん造られた時に、みなさん、たくさん買ってくれました。同時に個人宅の立て替えの時も、応接間に似合う本を必要としてくれました。

たけ 「本が売れない」時代の中で、古本屋を続けていく理由は？

公文 まだまだ「本との出会い」が、市場でも店でもたくさんあります。一昔前には無価値な物、チラシや紙モノ、絵葉書などが、また見直されて価値を付けている。古本屋のいい所は新しく価値をつけられるということ。まだまだ、古本屋には可能性があると思います。

組合市場の違い

たけ 東京と神奈川の組合市場の違いはどうですか？

馬燈 神田の方は全国から古本屋が集まりますから、真剣さうえにピリピリとした緊張感があるのですが、神奈川はわりと仲間意識があつて、好き嫌いはあるにせよ、僕は好きな感じですね。

たけ 明治古典会でも経営員をさせていた公文堂さんはいかがですか？

公文 すぐ売れるものは神奈川の方が相場的に高く落ちて、じっくり寝かせながら目録売りしながらなどと言う場合は東京の方が高いように思っています。そういう古本屋の層の違いもあり



古書馬燈書房 萩野禎彬

ます。

たけ 組合のメリット、デメリットありましたら。

文雅 最初は自分の蔵書を売り始めたのですが、やはり仕入れに限界を感じて、古書組合の存在を知って入会しました。その中で、自分の知っていた知識よりもより広く、深い本の世界がありました。関心のない分野でも多少の知識も増えました。ネット販売でも「日本の古本屋」に登録することが出来ますし、組合主催の催事にも参加する事ができるのは、組合に入らなければ出来ないことが大きなメリットですかね。デメリットはあまり感じないですね。

たけ まとうさんはいかがですか？

馬燈 メリットは組合員の仲良くできる事ですかね(笑)。と、言うのも、古書業界の人たちの同じ共通意識として「本をゴミにさせない」というのがあつて、その本に価値をつけてあげてまた、棚に戻してあげようというチカラを組合員からも感じます。

たけ 香博堂さんはいかがですか？

香博 ネット販売だと、一日中モニターの前で作業している感じなので、市場に行くという良い気分転換にもなりません。デメリットはあまり感じないですね。



これからの古書組合

たけ 今後の古書業界の事などお聞かせください。

公文 例えば、10年前にはあったフロッピーディスクも、今や読み込む機器さえ見つからない。一方で、本というのは百年前でも、百年後でもの普通に読める物である。ですが、捨てられてしまったらどうしようもないので、何とか次に繋げていきたい。

たけ 文雅さんはどうですか？

文雅 フロッピーの話がありました。が、電子記録媒体というのはどんどん進化しています。という意味でも、非常に不安定な記録媒体だと思います。そういう意味では「紙に印刷する」というのは、百年単位で残るものだと思います。なので、本というのは不滅だろうと古本屋の人間は思っているはずですよ。

たけ 電子書籍については若いまとうさんはどう思いますか？

馬燈 世間で言う程、電子書籍が普及しているとは思えないですし、本なんてとてもシンプルなので電子化する必要がないと思うのです。

本を信じている

たけ 若い方たちが本を買わなくなりました。その点はいかがですか？

公文 これからは、本といえれば紙ではなくタブレットで見て育ててきた人たちが増えてくると思います。そういった中で、本が身近にある物だということを気づかせるのが大変になると思います。



香博堂オンライン 久保 博

どの時代でも本を読まない人は、全然読まないし買わない。ですが、読む人はガツツリ読んでますし。何とも言えません。

たけ 文雅さんはいかがですか？

文雅 いろいろな所で古本即売会や催事に参加させてもらっていますが、その会場のお客さんの年齢層は50代、60代、70代の方が中心ですね。そう考えると、いま、古本を買ってくれるお客さんは高齢者の方ばかり。この方々をキープしつつ世代を少しずつ下げて、いかに若い世代に本を届けるか。という事なんです。それはアイデアとか仕掛けとか難しいですよ。読書って自発的な事だから、強制的にとかメディアを使ったりとかは、なかなか響かない様に思います。

たけ 今回の古本まつりや会館展は香博堂さんが中心で若いメンバーで揃えまし

神奈川県古書組合 主催

なぜ❷我々は古本屋になったのか

2016年11月5日(土)

文雅新泉堂 公文堂書店 古書 馬燈書房 香博堂オンライン
司会 たけうま書房

神奈川県古書籍商業協同組合

〒221-0825

横浜市神奈川区反町2-16-10

TEL:045-322-4060 FAX:045-322-4122

Mail : kanagawa_kosho@bg.wakwak.com



たけうま書房がでしたか？

香博 集客を今まではDMのみのお知らせでしたが、インターネットやSNSを使ったリ、ポスターを貼ったりチラシをまいたり、自らの手で宣伝したので若い人も少なからず来てくれたのかなと。たけ みなさん最後に一言ありますか？
香博 催事にもう少しチカラを注ぎたいです。

馬燈 僕が古本屋を始める準備をしていたら、当時、付き合っていた、結婚も考えていた彼女を、別の男に寝取られてし

まったので(笑)、がんばって見返してやろう！と思っています。

公文 私は旅人になって店を人に任せて仕入れの旅に出たいです。

文雅 自分の人生の残り時間を考えると、体力があるうちはずっと古本屋なのかなと思っています。催事は意外と体力仕事なので、ネットだけでやっていける古本屋になればなくと思っています。

たけ 本日はみなさま、ご来場いただきありがとうございます。